

三九五八番

ま幸さきくと 言いひてしものを 白雲しらくもに 立たちたなび  
くと 聞きけば悲かなしも

三九五九番

かからむと かねて知しりせば 越こしの海うみの 荒磯ありその  
波なみも 見みせましものを

相あひよろこ歡うたぶる歌二首 越こし中のなかの守かみおほ 大伴宿禰家とものすくねやか

持もちの作さく

三九六〇番

庭にわに降ふる 雪ゆきは千重敷ちへしく 然しかのみに 思おもひて君きみを  
我あが待またなくに

三九六一番

白波しらなみの 寄よする磯廻いそみを 漕こぐ舟ふねの 梶かぢ取る間まなく  
思おもほえし君きみ